

五月の手技材料

目白幼稚園 和田 實

例に因つて、五月の手技材料を考へて見ませう。

櫻の時節は去つて、つゞじ、さつき、の時節となりました。吹き流しが昔ならば家々の屋根の上に立つのでせうが、時節柄鯉幟が少くなつて、何だか少し物足らなさを感ぜますが、其代り屋内で手技材料に鯉幟を造るのも面白いでせう。鯉の口には畫學紙の裏打ちをすると口が圓く開いて具合がよくなります。體部からだの方は何うも圓くふくらみませんが、之をふくらませるには、最初、鯉を帖る時に、一枚の紙を中壁にして其兩方に鯉の體部からだを少しふくらませて貼りつけると宜しい。貼り上げた處で糊が乾いたらば中壁にした畫學紙の要らぬ

部分を缺み取れば宜しい。鯉は成る可く、黒と赤と二色にしたい。大きさは大きいのが七八寸、小さいのが五六寸位幟の竿は篠竹が宜しい。鉛筆位の太さが適當でせう。長さは一メートル位、先の方に「ヒゴ竹」(豆細工に用ゆるもの)を十センチ位に切つて竿と十字に差し込み風車をつける。風車は折紙で造り豆で取り付ける。竿頭には粘土細工の玉に金色の「ニス」を塗れば上等です。「ニス」の造り方は藥屋から「ラツクニス」の瓶詰(普通ビール瓶)を買つて來て、之に繪具用の金粉(實は銅粉)を入れて筆で塗れば宜しい。或はそんな手數を掛けずとも、クレオンの折れ屑を小皿に集めて

トロ火の上で融かして塗つても宜しい。更に吹き流しをつけるならば組紙の材料を更に細く缺したものを口輪の紙に貼りつければ宜しい、色は五色位で、是で鯉幟が出来た、部屋の適當の處に立て置く面白いでせう。子供の製品は家づとにさせる。(是は先月分の中に書く筈でしたがつい忘れましたから後の祭りです。申譯ありませんが茲に記して置きます)

粘土細工及之に類する手工は今が最上の時期です。精々遊ばす可しです。出来上つたものの上薬(糊薬)を掛けて焼くのは甚だ手敷が掛りますが、其代りにクレオンをとかして塗つて居る人がありましたが、妙案だと思ひます。之には原品を素焼する程に乾かさぬとも差支ないので、一層、世話がありません。

五月の末から六月に掛けては愈々初夏の季節で追々水の親しまれるときで、金魚屋の活躍時期で

せう。夫れで手工材料は主として此方面から輸入可しです。

お池の小舟、折り紙でボートを造り、之にクレオンをとかして塗ると水に浮ばすことの出来る、お舟が出来ます。舟の形を工夫したり帆を上げたりすると尙宜しい。モーターボートや小汽船も面白く出来ます。大きい子供ならばボール紙で軍艦が造れます。塗料は存分に塗らぬと水が滲み込みます。

水出し、初夏の玩具に水出しはなくてならぬものです。玩具屋の店頭には硝子製やセルロイド製のもの、澤山ありますが、先生の手製も子供には有り難いものです。教育上には勿論、此方が大必要な仕事です。先づ一番簡単に出来るのはゴム管の先に噴出する口の方の工夫をして、一本の棒に噴き出さすか、数篠の筋に噴き出さすか又は玉(セルロイド)の吹き上げにするか、或は人形の

頭や鳥の嘴から噴き出さすか、夫々工夫して噴き出す口を造り、ゴム管の他方の端に重壓を加へてもつぶれぬ様に篠竹の一二寸に切つたものか筆の軸の切りたるものを差し込んで、之を水槽の底に沈ませ、石か何かで重しをして止めて置くのです。重しをのせる代りに石をしぼり付けても宜しい之で仕度が出来ました。水を入れて吸へば直に噴泉は勢よく出て來ます。ゴム管のない場合には篠竹で造ります。其方法は先づ篠竹を入要の長さ丈に切り（水槽に入れる部分と噴口に導く部分と水槽の上縁に跨がる部分）之を洋傘の骨で造つた平錐で竹の節を抜いて導管を造り、次に曲げ場所の接ぎ手として立方體の木を採り（丁度正立方體の積木の様なもの）之に直角に相隣れる面から穴を開けて穴の中が立方體の内部で迎角に開通する様に造らへて篠竹を接ぎ合はすのです。硝子で導管を造るには先づ適當な太さの硝子管を買つて來

て、之をアルコールランプ又は瓦斯バーナーの上にかざして一部を眞赤になる迄熱し、赤くなつて軟くなつた時に曲げるとも引延ばすとも自由に細工するのですが、成る可く手早く行らぬと直に冷えて堅まつてしまひます。噴き出し口の細い口を造るには軟くなつた時に急に引つ張ると口頭部が太い部分から急に細くなります。其細くなつた先の方を適當に折れば「口」が出來ます。水出しの玩具はゴム管の方は子供の細工に出來ますが、其外は子供には出來ません。是等は先生が造つて見せてやるより外に仕方がないでせう。併し、造へて見せてやるのが何の位教育的だか知れませんが、少し面倒でも見せてやりたいものです。

水車。水出しの水で色々活動させる玩具の原始的のものです。原料は大根と經木板で充分です。大根を適當の大きさに切つて水車の軸とし之に經木の羽根を取り付ければよいのです。極めて簡單

に出来ます。又、軸を木にして羽根をブリキにしても宜しいでせう。(子供には不適當)野外で臨時に造りたかつた時には草の球根を掘つて軸とし之に笹又は木の葉を糸で縛り付けても出来ますが是も子供には六ヶ敷いでせう。

垂蓮、花辨は一枚毎に蠟を溶かした中につけて充分に滲みさせ、之を集めて一々蠟糊にて貼りつける葉も蠟に滲みさせて乾かす。是は出来るそばから水に浮かすことが出来るので、子供は悦びます。

金魚、黒や赤等の折紙で金魚の形裏表二枚を切る。此際、腹の方を成る可く水平になる様に輪廓して糊代を少し付けて置く。次に金魚の腹の方臺紙に糊付した後、背の方を糊付けにして、更に臺紙と共に全部を蠟塗する。出来上つたならば水面に浮ばせて宜しい。此方法で水鳥も出来ます。但し蠟塗は先生の仕事になるでせう。

金魚の別法、前項の方法で、造へたのは水中に沈ませるとしては色が流れたり、こはれたりしていけません。それで別の方法としては西洋紙の「すき色紙」と云ふのを買つて(よく新聞の折込廣告などに使つてある紙)之で、ボール紙を金魚の形に切り抜いたものを包み、そして充分に蠟塗したものに「重り」を糸にて結び付けて水中に入れる。此時糸の長さを加減すれば金魚は水中適宜の處に游泳することになるでせう。更に「すき色」紙を巾三、四ミリ位、長さ二十センチ位に細く切つたものを適宜束ねて重りをして水底に沈ませると海藻になるでせう。そして金魚を其間に入れると面白いものが出来るでせう。海藻には蠟付は要りません。此方法で浦島太郎の龍宮行などを工夫することも出来ませう。人物は金魚と同様な造り方にし、龍宮城も同様でよいでせう。或は遠景に赤い屋根に白い壁が見せたかつたら、大根とにんじ

んちを使つて立體的な龍宮を積木造りにして接ぎ目は小揚子でつなげて城壁の中からのぞかせると逆もよい遠景が出來ます。尤も、此場合には細工ものばかりでは眞景が出來すまいから金魚藻や杉の苗・岩石などを使つて海底の氣分の出る様にすゝるのが必要です。

川遊び、是は地上に適當に凹所を逐ふて川巾二三寸の川を造り兩側には適宜に堤防を造り橋を掛け、舟を浮べ、水車を仕掛けて置く、仕度がすつかり出來たら水源地から水を落とす。水は瀧となり淵となり、川となつて延々として流れて行く。笹舟は流れる。橋の下はくゞる。水車は廻はる。子供は逆も遊ぶでせう。是の實際經驗としては梅雨時によくあることですが、雨に濡れながらの實際は感心しませんから、水の少し豊富に使へる處では何とか利用して行つて見て下さいませんか、何んなにか悦ぶことだらうと思ひます。

以上で、大體、此季節に相應した手技材料と其應用的遊びを説明しましたが、茲にも一つ行らせたうものは水道遊びであります。是は一組の子供を全部一時に遊ぶことは困難かと思ひますが、數人の大きい子供を選抜して行らればさつと面白く行くと思ひます。

水道遊び、先づ竹の節を抜いたものを幾本も造へて置く、「接ぎ手」には少し太い竹を二三寸位に切つて置く、曲り角には太い接ぎ手の一方が節で塞がつたものの横に穴を明けて直角に差し込める様にして用ゆ、偕て、斯様に準備が出來たら、地面に適當な溝を堀り次に水道管を順次に埋めて、一方は水源に一方は池なり、泉水になり導き、仕度の終つた所で水源に水を入れる、噴出口に水出し玩具を適當に仕掛けると面白く噴き出すでせう。川遊びと水道遊びは何方も子供を幾組にも分けて、夫々造るもの、仕掛けるものを分擔させるこ

とが必要で、甲さんは橋を、乙さんは水車を、丙さんは瀧を、誰さんと誰さんは何處から何處迄の堤防をと言ふ様に、各分擔を極めて、作業をさせ、之を適當に統制して、修繕やら、模様變えやら然る可く、注意して、愈よしと云ふ處で通水すると云ふことにすれば宜しい。大分大仰な仕事ではありませんが、頗る面白い仕事になると思ひます。水に就いての遊びは人數の少ない時はまだ色々があると思ひますが、幼稚園の様な大人數では衣服を汚したり、濡らしたりするものなどが出来て、管理が中々骨折です。以上の二つだけでも實際行るときには相當骨が折れるだらうと思ひますが、此位の程度ならば成功は請合です。そろ／＼梅雨期も近づきましたから、注意して御研究になれば部分的には幾等も實驗の機會があると思ひます。

兒童保護の先覺者を語る夕

第五回乳幼兒愛護週間の催しの一つとして、五月五日午後六時半より、東京社會事業協會主催で、神田一ツ橋の帝國教育會館に開催された。

一、ロバート・オーエンを憶ふ

小島 幸治氏

一、ペスタロッチの思想について

野口援太郎氏

一、フレイベルを語る

倉橋 惣三氏

一、モンテッソーリとその思想

河野 清丸氏

講師は何れも、その語られる先覺者についての第一人者であり、最も適はしき方々で、深き御造詣中より生活や人格、或はそれ等を背景としての思想を語られ、和やかに偉人をしのべる集ひであつた。